

4月

春を感じる新芽の芽吹き

- <遊び> ホッピングボール、フープ、鬼ごっこ、かけっこ
- 進級した4、5歳児は、日に日に緑が増していることを感じ、ふさふさしてきて「気持ちいい」と喜ぶ。
 - 新入園児もお兄さん、お姉さんのまねをして、はだしになり、芝生の心地良さを感じる。中には、はだしになることに抵抗がある幼児もいる。
 - 友達同士で顔を見合わせ、芝生に座り込んで言葉を交わし、友達との関わりが生まれる。
 - テントウムシやチョウなどがやってくる。捕まえると、図鑑で調べる。



効果

- ・ 新入園児は、戸外で過ごす開放感を感じることが、心の安定につながり、安心して好きな遊びを見付けながら、幼稚園生活に慣れることができる。
- ・ 進級児にとっても、慣れ親しんだ園庭で過ごすことは、安定へのきっかけになる。
- ・ 転倒しても、けがをすることが少なく、芝生がクッションになり幼児が安全に遊べる場となっている。
- ・ 暖かい日差しの中で、走ったり転がったりして、芝の感触を味わいながら全身運動をし、思い思いに体を動かす楽しさは、「明日も幼稚園に行きたい」「幼稚園大好き」という気持ちを喚起する。

5月

新芽の柔らかな感触を感じる ～ はだして、気持ちいい ～

- <遊び> フープ、鬼ごっこ、草花の色水遊び
- かいっぱい走った後は、すぐに寝転がったり、座ったりできる。
 - 寝転がって空を見上げると、澄み切った空の美しさや飛行機雲を見付けることができ、友達との会話を楽しむ。
 - 新芽は、水分を含み、柔らかく、少しひんやりとした感触が心地良い。
 - はだして遊ぶことに抵抗のある幼児も友達の様子を見ながら、一緒に走り始める。
 - クラスのみんなでかけっこする楽しさを味わう。
 - 日差しが強くなり、気温の上昇とともに、水を使った遊びが増える。



効果

- ・ ひんやりとした芝生の上で座ったり、寝転がったりする気持ちよさを感じるとともに、戸外に出ることによって生まれる開放感や広い空を見上げる爽快感を存分に味わうことができる。
- ・ 足の裏に刺激を受けながら体を動かすことは、土踏まずの形成を促進し、バランスのとれた体作りに役立つ。
- ・ 芝生が醸し出すゆったりとした温かい雰囲気、幼児たちの活動意欲を高める。

6月

緑が深まる ～ 雨の日の探検、楽しいよ ～

<遊び> ホッピングボール、フープ、
ボール遊び、雨の日の探検

- 3歳児は、園生活に慣れ、自分たちからはだしになる。
- 4、5歳児は、はだしになることが日常的になる。
- フープやボールなどを使うと、次第に友達が集まって小集団の遊びが始まる。
- 刈りたての芝生はふんわりと草の香りがし、座り込んで遊びながら、感触や匂い、温かさを感じることができる。
- 傘をさしての探検では、ピチャピチャと跳ねる水しぶきや、足踏みをするといつもと違う音に気付く。



効果

- ・ 雨の日の芝生も、五感を通して遊んだり、発見の場となったりする。雨上がりには、霧がかかることもあり、気候によって起こる自然現象が体感できる。
- ・ 興味のある遊びをしている友達の様子をまねたり、近くで同じことをしたりしながら、友達の存在を意識し、仲間がいることで「明日もしよう」「もっと、こうしたい」という意欲につながる。
- ・ 開放的な気持ちを共有することで友達との広がりが広がる。心と心をつなぐ、緑のじゅうたんになっている。

7月

暑さの中にも、涼しさを感じる

<遊び> 水遊び、体操、虫取り

- プールに入る前に、みんなで集まって体操をする。はだしで柔らかな感触を味わいながら、全身を動かす楽しさを味わう。
- 芝生の中に隠れているバッタを発見し、「芝生が気持ちいから、虫もいっぱいいるんじゃない」とつぶやく幼児がいる。
- ビニールプールが登場し、遊んだ後の水は、芝生に使い、水を大切にすること、思いやりを持って世話をすることを知る。



効果

- ・ 厳しい暑さが続く中でも、芝生の上をそよぐ風は心地良く、涼しさを感じることができる。はだしの足の裏からも、柔らかな感触とともに、心地よい冷たさが伝わる。
- ・ 友達が集まり、体操したり、寝転んだりしながら、全身で感触を楽しみ、落ち着ける場となっている。
- ・ 虫を見つけた喜び、開放的な気持ちなどを共有する中で、友達とのつながりを感じ、関わりが広がる。

8月

夏休み、みんなで世話をするよ



効果

- ・ 保護者や教師と一緒に芝苗の移植をしたり、草引きをしたりしながら、手入れをすることにより、より身近な芝生になり、愛着が強くなると思われる。また、芝生を大切にしようとする気持ちをもつことができる。

9月

秋の訪れを感じる ～ トンボやバッタがきたよ ～

<遊び>虫取り、運動遊び

- たくさんのトンボやバッタが来るようになり、虫取り網を持って駆け回ったり、跳んだりする。
- 運動会ごっこを毎日楽しみ、綱引きやかけっこなど、いろいろな運動遊びに取り組む。
- ゴムを付けたコーンやフープ、網などを工夫して並べ、跳んだりくぐったりして遊ぶ。
- 体を動かすだけでなく、円陣を組み友達と相談したり、会話したりするようになる。



効果

- ・ 虫取りを通して、走る・跳ぶ・踏ん張るなど、様々な動きを体験する。虫の動きに合わせて、全身を動かすことは、バランス感覚や距離感を養うとともに、体の各部位の動きの習得につながる。
- ・ 開放的な雰囲気の中で、会話が広がり、コミュニケーションの場になっている。ゆったりと遊ぶ中で生まれる思いやりの気持ちは、道徳性の芽生えにつながる。
- ・ 転んでも痛くない安心感から、ダイナミックに走ったり、跳んだりすることができ、楽しく自由に体を動かす心地よさを感じることは、運動遊びを助長し、様々な動きを取得することにつながる。

10月

過ごしやすい秋 ～ ボールで遊んだり、寝転がったり、楽しいよ ～

<遊び>運動遊び、ボール遊び、虫取り

- はだしになって過ごすには良い季節になり、自然にはだしになって遊ぶ。
- ボールを使った遊びを楽しみ、体を動かすことを十分に堪能する。
- お絵描きやお店ごっこも、芝生で遊ぶと、いつもと違う気分が味わえる。
- 友達同士が自然と集まり、楽しいことが始まる。
- 友達と座って会話を楽しんだり、寝転がって遊んだりする姿が多く見られる。



効果

- ・ 開放感を味わいながら、いろいろな遊び、いろいろな人との関わりが自然と生まれる場となっている。
- ・ 寝転がって日差しの温かさを感じたり、友達と顔を寄せ合ったりする中では、柔らかな芝生の感触を味わいながら、和やかな気持ちで友達と関わることができる。人とつながるうれしさ、友達がいることの喜びを感じることができると思われる。
- ・ いろいろな遊びを通して、友達と一緒に楽しく遊ぶ方法を考える場を意図的に設けている。異年齢との友達との関わりが生まれ、それを心地良いものと感じ、手をつないだり、優しく手助けされたりしながら、相手の気持ちを考え行動する姿につながる。

11月

芝生も衣替え ～ 少しずつ寒くなってきたよ ～

<遊び>運動遊び、すもうごっこ、
長縄跳び、虫取り

- 前半は、日差しが温かく、戸外でゆったりと過ごす。芝生の上で弁当を食べると心地良い。
- 後半になると寒さが増し、はだしになってもすぐに靴を履く様子が見られる。
- 芝生も冷え込みに緑から茶色への衣替えし、衰退する。
- 長縄跳びをしたり、競ってフープを回したりするなど、根気強く遊ぶ姿が見られる。



効果

- ・ 足に伝わってくる芝生の冷たさや、芝生の色の变化などから、冬が近づいていることに気付き、季節の移り変わりを感じることができる。
- ・ 虫取りの姿も変化し、3歳児、4歳児も自分の手で捕まえられるようになり、5歳児は、捕まえると飼いや餌などについて自分たちで図鑑を見て調べるようになる。虫と触れ合う中でも、年齢や時期によって、幼児の学びの変化が見られる。
- ・ 戸外で弁当を食べる中で、開放感を味わい、いつもより美味しく感じるができる。ゆったりと座る中で、空の変化や木々の色付きにも気付き、友達との会話も弾むと思われる。

12月

季節の移り変わりを感じる ～ 寒さなんて 吹き飛ばせ ～

<遊び>ボール遊び、フープ遊び、長縄跳び
落ち葉集め、氷遊び

- 体を温めようと、走ったり跳んだりして、伸び伸びと体を動かすことを楽しむ。
- ボールやフープなど、様々な道具を使って工夫して遊ぶ。
- 茶色になった芝生、落ち葉、影の長さの変化、氷が張るなど、遊びの中で季節の移り変わりを感じている。
- 茶色になった芝生を見て「枯れちゃった?」「大丈夫かな?」と心配するつぶやきが聞こえる。



効果

- ・ フープやボール、長縄、竹馬などいろいろな道具を使って遊ぶ中で、根気強く遊んだり、工夫したりし、挑戦意欲が高まっている。
- ・ 芝生の色の変化は目で見ても分かりやすく、季節の移り変わりを感じるとともに、芝生により一層愛着を感じている様子がうかがえる。その気持ちは、人を思いやる気持ち、ものを大切にしようとする気持ちにつながっていくと思われる。

1月

雪や霜からの発見 ～ 体を動かすと 暖かくなるよ ～

<遊び>縄跳び、長縄跳び、たこ揚げ、
マラソン、氷遊び、雪遊び

- 土の色と見分けがつきにくくなるが、芝生の上だけに霜が降ったり、雪が積もったり解けていたりする変化に気が付く。
- 縄跳びや長縄跳びを楽しむ中では、自分なりに目標を定めて繰り返し跳んだり、友達と競い合い、励まし合ったりしながら意欲を持って取り組む。
- マラソンを繰り返し楽しむ。
- 転がって遊ぶことはなくなる。



効果

- ・ 緑ではなくなったが、ふかふかとした感触は残っており、足への負担が少なく、安心して遊ぶことができる。
- ・ 霜が降りて湿気を含んだり、雪が降ったりすることにより、芝生の存在が目につくか、冬ならではの自然現象に、幼児の好奇心や探求心が高まる。
- ・ マラソンや縄跳びなどの遊びを通して、持久力が付いたり、体幹を養ったりすることができる。

2月

春へと向かう ～ 寒さに負けず 体を動かすよ ～

- <遊び> 縄跳び、長縄跳び、マラソン
氷遊び、サッカー、フープ遊び
- 雪を手で触り、足で踏んで感触を楽しむ。黒い紙に乗せて結晶を見る。
 - 氷屋さんごっこを通して、たくさんの友達と関わって遊ぶ。
 - サッカーやフープ、ミニハードルなど様々な道具を使った遊びを楽しむ。
 - 跳んだり、走ったりと伸び伸び体を動かして遊ぶ。時折、枯れ芝が足や体に付くが気にせず遊ぶ。
 - 陽だまりの暖かさを感じるとともに、芝生の根元あたりに新芽を見付ける。



効果

- ・ 転んでも痛くないという経験を積み、安心して興味を持った遊びに全力で取り組むことができる。
- ・ 冬ならではの遊びを存分に楽しむ中で、体験を伴った不思議に思う気持ちや発見の喜びが、就学以降の学びに向かう力の基礎になるだろう。
- ・ 友達と一緒に楽しさを共有することは、さらに遊びのひらめきが広がり、より楽しさを共有することができる。
- ・ 月半ば過ぎ頃、暖かな陽気とともに、陽だまりや芝生の新芽への気づきが春の訪れを感じることにつながり、季節の移り変わりを実感することができる。

3月

春を感じるよ ～ 一雨ごとに温かさを感じるよ ～

<遊び> 鬼ごっこ、フープ遊び、長縄跳び
サッカー、ドッジボール

- 所々に新芽を見付ける。
- 友達と一緒に、鬼ごっこをしたり、ボールで遊んだりすることを楽しむ。
- ぽかぽか陽気とともに、寝転がることもある。枯れた芝生が付きつつも喜ぶ。
- 草を見つけて、草抜きをする。
- 5歳児が卒園することを感じながら、友達と一緒にいろいろな遊びを楽しむ。



効果

- ・ 新芽を見付けたり、枯れ芝が衣服に付いたりしながら、季節の変化を感じることができる。徐々に緑が増えていく様子や、今までの経験から春の訪れを感じ、緑になっていくであろう芝生を楽しみにしながら遊んでいると思われる。
- ・ 幼児が草を抜こうとする姿から、芝生への愛着が感じられる。
- ・ 1年を通して、いろいろな変化に気づき、体を伸び伸び動かして遊ぶことにより、足腰が鍛えられると共に、適度な刺激が足に加わることは、体力の向上、体幹を鍛えることにつながっている。